

第1回 県政運営評価戦略会議 会議録

- 1 日時 平成24年7月30日(月) 13:30～15:40
- 2 会場 県庁10階 大会議室
- 3 出席者 委員
- | 委員 | | 県 | | |
|------------------|-------|------------|--|--|
| 阿部 頼孝 (敬称略、以下同じ) | 飯泉 嘉門 | 徳島県知事 | | |
| 石田 和之 | 島田 清 | 監察統括監 | | |
| 佐竹 弘 | 数藤 淳一 | 監察局長 | | |
| 高畑 富士子 | 小泉 憲司 | 政策創造部副部長 | | |
| 田村 耕一 | 犬伏 秀之 | 経営戦略部副部長 | | |
| 土佐 和恵 | 小原 直樹 | 県民環境部副部長 | | |
| 橋本 延子 | 大貝 誠治 | 保健福祉部副部長 | | |
| 浜口 伸一 | 久住 武司 | 商工労働部副部長 | | |
| 濱口 英代 | 黒石 康夫 | 農林水産部副部長 | | |
| 森田 陽子 | 近藤 文彰 | 県土整備部副部長 | | |
| 森本 長生 | 増野 朋也 | 南部総合県民局副局長 | | |
| | 蔭山 真応 | 西部総合県民局副局長 | | |
| | 原内 司 | 教育委員会副教育長 | | |
| | 板東 克典 | 監察局次長 | | |
| | 河野 功 | 評価検査課長 | | |
- ほか

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 「いけるよ！徳島・行動計画」の評価について
 - (2) その他
- 3 閉 会

(議事項目と概要)

- 1 主要部局の取組状況等説明
 - 2部局より、取組実績や今後の見通しなどを資料(スライド)に基づき説明。
- 2 知事挨拶(概要は別に掲げる)
- 3 評価私案の説明(資料1)
- 4 質疑(以下、概要は別に掲げる)
- 5 評価結果の採択

- 6 目安箱等に寄せられた意見・提言の採択（資料4）
- 7 評価期間の運営評価について（資料5）
- 8 監察統括監挨拶

■知事挨拶

（飯泉知事）

本日は、第一回となります県政運営評価戦略会議を、開催をいたしましたところ、会長さんをはじめ、委員の皆様方には大変暑く、またお忙しい中、ご出席をたまりまして誠にありがとうございます。また、冒頭に遅れまして大変失礼をいたしました。

皆様方には、昨年の会の発足以来、県のあらゆる点につきまして、様々な観点から御提言、御評価をいただいております。心から感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。

さて、東日本大震災発生から1年と4ヶ月を経過したところでありますが、その後の急激な円高等、日本にとってはプラスとなる要因がなかなかない中で、閉塞感は漂ったままとなっているところであります。しかし、本県にとってみますと、この閉塞感に加えまして、次に来るであろうと言われている巨大地震、これが東海・東南海・南海の3連動地震、いや4連動、首都直下とも一緒と、このようにも言われるところであります。

我々としたしましては、やはり県民の皆さんの最大の関心事であります、この3連動地震、今回の東日本大震災のように行政が「想定外」という言葉を繰り返すのではなく、これを迎え撃つ、こうした覚悟で今、臨んでいるところであります。

また昨今では、例えば人口が、いよいよ日本全体で減少期に入りました。急激な少子・高齢化、また経済につきましても雇用を合わせて大変な低迷をしているところであります。

こうした日本全体の課題、最初にこれが現れるのが、徳島をはじめとするいわゆる地方部となるところであります。これまでは、こうした地域を課題先進県と、このように言われてまいりました。しかし、例えば、昨今では、過疎地域から今度は65歳以上の人口が、その集落のなんと半分を占める、これを限界集落と言われたところでありまして、全国平均が15.5%のところ、徳島は35.5%、課題先進県と言うだけではなくて、これをまず徳島から解決をする、そして全国にその処方箋を発信をする課題解決先進県になっていこうということで、例えばこの限界集落につきましても、後ろ向きに捉えるのではなく、「集落再生なんだ」と「新しい集落をつくっていこう」と、こうした観点で、例えばこれもピンチをチャンスに行いました、地デジ化をなんとか受け止めていこうということでの「全県CATV網構想」、これが実現をしたことによりまして、徳島県は今では光ファイバー王国と

も言われ、各中山間地域には家庭まで光ファイバーが入り、そしてケーブルテレビで地域の情報、災害情報はもとより地デジの対応、ブロードバンド環境、さらにはIP電話という形で、何時間話しても電話代が無料と、こうしたケーブルテレビの先進地域に今やなったところでもあります。

これを東京のICTの企業を誘致をするのに大いに活用していこうと、今ではこのサテライトオフィスが神山町、あるいは美波町を中心に展開され、全国からこうした限界集落対策としても注目を浴びてきているところでもあります。

しかし、いろいろな施策を行っていくに当たりまして、やはりしっかりと一つの事業を、評価をしていく必要がある、事業評価を行う必要がある、このように考えているところでもあります。

しかし、その評価が例えば県庁内だけで行いますと、県民の皆さんから見ても「それは単なる手前味噌ではないか」、このように言われてしまうのも当然のこととなります。そこで、昨年度から当戦略会議を立ち上げさせていただきまして、いわゆる各事業の運営、また評価、こうしたものを行っていただくという形で、今、各柱に沿って今年度におきまして737事業あるわけではありますが、これらを皆様方に一定の期間、1ヶ月間くらいを想定をしているところではありますが、じっくりと柱ごとに御評価をいただこうと、そしてそのいただいた評価といったものを、今、「とくしま目安箱」ということで、県民の皆様からもいろいろな形での政策提言が行われております。これも併せて皆様方に御評価をいただきまして、これをまとめ次第、県の総合計画審議会の方に御提言をたまわりまして、そしていただいたものにつきましては、次年度に向けての予算編成、あるいは各種施策にしっかりとスピード感をもって活かしていきたいと、このように考えておりますので、委員各位におかれましては、ぜひ大所高所から御提言、御示唆をたまわりますようどうぞよろしくお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

どうもありがとうございました。知事は公務のためにこれで退席ということですので。どうもありがとうございました。

(飯泉知事)

それではどうぞよろしくお願いをいたします。

■質疑

(会長)

それでは、質疑に移りたいと思います。時間の都合もありますので、15時前に

は終わりたいと考えております。私の評価案に対する御意見・御質問、各2つの部局から説明がありましたプレゼンに対する御意見・御質問、どこからでも結構ですので、よろしく願いいたします。どなたかございませんでしょうか。

はい、A委員お願いいたします。

(A委員)

数値目標について、既に達成されて平成26年度の数字を上回っているような数値目標もありますが、どういう基準で目標値を立てられたのか、聞かせてほしいと思います。例えば、23年度で観光客が133万人ということを言われておるのですが、阿波踊りの時には、阿波踊りに来る人口が、どこの評価か数値かわかりませんが、130万人なのです。そういうわけであまりに多くの人が出ています。

先程もありましたが、リピーターとして県内の人も、県外だけでなく県内の人も阿波踊りの人数など、そういうのも足しても200万人近い人が出ているのかなとも思うのですが、この辺りの目標値というのは、わかるところだけでも、一例だけでもいいのですけれども、数値目標をどう立てたというのがあれば教えてほしいのです。一番知りたいのは観光客の、今年141万人以上という。23年度の達成しているところです。

(会長)

2ページ目の下にあります、年間の延べ宿泊者数という、ここでしょうか。

(A委員)

そうです。

(会長)

そうですね、はい。この年間の延べ宿泊者数の数値目標というのは、私が大鳴門橋の通行台数、数値目標が変わっているのはどうしてですかというようなことと同じだと思いますので、数値目標の設定についてお答えをお願いいたします。

続いて、もうお一方、お二方、質問をお受けしたいと思うのですけれども、どなたか、御意見、質問ありませんでしょうか。はい、B委員、お願いいたします。

(B委員)

阿波踊り空港の利用について、私も近く住んでおり、よくわかるのですが、お盆などの機会にはイベントをしているように思います。しかし、徳島の玄関ですので、お客さんに対する特産物の宣伝や阿波踊りの連を増やすなど、空港の利用を皆さんに喜んでいただけるようにしていただけたらと思います。これは私の希望なの

ですが、どうでしょうか。

(会長)

B評価ということに対する御意見ということでしょうか。

(B委員)

評価としてはB評価でいいと思いますが、これからも阿波踊り空港でのイベント関係をもっと充実していただけたらなと希望しております。

(会長)

御要望ということによろしいでしょうか。

(B委員)

そうですね、よろしくお願いします。

(会長)

もう一方、御意見、御質問、御要望ございませんでしょうか。

はい、C委員お願いいたします。

(C委員)

まず渋滞対策についてですが、私も川内インターから出てくる11号線を利用していますが、以前に比べて渋滞が劇的に減ったような気がしています。「すごい減ったな」と思うのですが、一方で、しらさぎ大橋を通過して論田の辺り、あちらの方が、私の知り合いの話では「むちゃくちゃ混む」と言っており、どこかが緩和すればどこかの渋滞が増えたりしている部分もあるのではないかと思います。渋滞対策を全体的に捉えて評価するのか、部分的な渋滞緩和を評価すればいいのか、ということです。この項目はA評価としておりますが、そういうところは、議論になるのではないかと思います。

(会長)

ページにするとどこでしょうか。

(C委員)

7ページの26番の項目です。そこの渋滞対策と13ページ49番、県土整備部の中の木製ガードレールというのがございます。目標値5,500メートルに対して5,673メートルということで、数値クリアしています。これは特に脇町インターチェンジから県西部、特にちょっとレトロな雰囲気醸すために木製ガード

レールを設置し、そういう観光も絡めて演出したいような感じが出てくるのですけれども、そういった意味でガードレールを設置しますと劇的に町並みが良くなります。脇町インターチェンジも何メートルかやっていて、「非常にいいな」と、皆さん好評だと思っておりますが、この数字が7,000メートル、7キロぐらいですよね、この設定地点が適当なのかどうなのかということをお尋ねしたいと思っております。これは全体的に、ガードレールといったらむちゃくちゃなメーター数だと思っておりますけれども、何%ぐらいが整備できているのか、あるいはしたい地域がどのぐらいあってその地域が何%ぐらい、そういったこともお聞かせ願えたら、数値目標の、先程A委員がおっしゃっていた設定のようなことについて、この2点についてお伺いしたいと思っております。

(会長)

はい、ありがとうございます。では、一つずつA委員からありました数値目標の設定はどのようにしたのかということで、2ページ目にあります年間の延べ宿泊者数の数値目標の設定、お願いします。

(商工労働部)

商工労働部からお答え申し上げます。まず、目標値の設定でございます。一例でA委員が申し上げられました観光の見込み客数でございますが、これは過去の数字データを基にしまして、傾向、トレンドを22年度から26年度まで、どれぐらいの傾向で伸びるかというのを予め想定いたしまして、それをもちまして設定した数値でございます。他にもいろいろ決め方はあるのですけれども、いろんな要素がある中で、過去のデータもございますので、それを基にしまして大筋、そういった目標を立てたということでございます。

それと関連するのですが、徳島県の観光振興基本計画にもいくつか数値目標がございます。全部で6つあるのですけれども、その中から抽出した3項目をこの「いけるよ！徳島・行動計画」の中に入れております。この数字につきましても同じような手法をもちまして設定をしているというところでございます。

それから先程、「阿波踊り空港でのイベントの開催をもっとしてはどうか」という御要望もあったかと思っております。阿波踊り空港につきましては、県土整備部とも連携をしながら商工労働部におきましても物産の販売、あるいはチャーター便が就航した折にはホールでもって阿波踊りの開催、あるいは子供達が描いた絵を展示したりしまして、あるいは県内の主な企業のブースを設けまして県内企業の紹介をするなど、様々なイベントを開催してきたところでございます。

御指摘のように、これからもこの阿波踊り空港、非常にいいロケーションでございますし、情報発信のできる場所というように考えてございますので、様々な点を考慮いたしまして、御提案の指示を踏まえまして、今後とも検討してまいりたい

と考えているところでございます。以上です。

(会長)

A委員、よろしいでしょうか。

(A委員)

数値目標の設定について、過去の実績を使うというのはよくわかるのですが、数値の変動幅がこういう範囲内で変化をしているのか、また過去のデータに沿ったような傾向のものなのか、そのイベントなど、そういうものが効果的に作用して増えてくれるのか、その辺りの解析がわかるのであれば教えてほしいと思います。

(会長)

いかかでしょうか、はい、お願いします。

(商工労働部)

はい、将来推計をするに当たりまして御指摘のように上限値と下限値という中で、だいたい中央の線を選ぶのが通常なのですけれども、御指摘の内容はその中でいろんな変動値があると、これは当初予定より以上に何か要因があるのではないかと、この点を充分把握して今後の施策に反映すべきだと、そういう御指摘かと思えます。

これにつきましては、入念なチェックをこれからしたいと思えますので御指摘の点を充分踏まえまして、より効果的なイベントがどのようなものであるか、これを把握しながらさらなる目標値のアップに向かって努力してまいりたいと思っております。

(A委員)

ありがとうございます。観光については、そういったものはイベントや食品関係、の紹介、魅力をつくって徳島のセールスをする。また徳島のものを使ってもらおうということですので、やはり2点とも関係というのは非常に大きく、観光や物流で関係しているという解析をしておかないと、無駄なイベント、不必要な投資が続くのではないかと思いますので、その辺りをしっかりと把握していただければこの全体の事業というのが生きてくるのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。この数値目標を第二幕より下げているものもあるのですよね。どうして下げているのかという理由はわかりませんが、先程のようにイベントがなくなかったから下げたのか、その辺りの解析が必要だと思えます。

下げると数値目標を達成します。先程申し上げた2ページ、A委員の質問があった上の大鳴門橋の通行台数なのですが、第二幕より大幅にその目標値を下げているのです。目標値を下げたら達成しますよね、下げた背景に「こういうイベントがあったけど、今回はないから下げたのだ」というような、何かがないと下げたら達成しますし、大きく捉えていくと達成しないという、ジレンマに陥るのかなというように思うのですが。

(A委員)

そうですね、これは非常に難しいです。

(会長)

そうですね。

それでは阿波踊り空港については今、お返事いただいたということで、C委員から御指摘がありました、7ページの26番の全体を通してAとするのか、部分的には渋滞があるところもあるのではないかという御意見ですが、この辺りはどうでしょうか。私はこれを見て、できているのかなと思ってしまったのですけれども、皆さん方の御意見を頂戴できたらと思います。C委員としてはどのように。

(C委員)

先程申しましたように11号線の渋滞対策に、しらさぎ大橋が建設されたと思います。それに関してなのですが、一方でしらさぎ大橋から小松島に向かうルート、こちらの方がやたら混んでいるということをよく耳にしますので、その周辺の方は困っているというのをよく聞きます。

ですから、一方で渋滞が解消されても、他方で、ものすごく混んでしまうということで、計画の途中だからなど、いろいろ理由はあると思うのですが、それを総合的に渋滞の解消という表現で括ってしまっても良いのかどうかということです。

(会長)

どうでしょうね。

(C委員)

どうでしょうね。

(会長)

その前に、まずガードレールの件、お尋ねしましょうか。お願いいたします。

(県土整備部)

県土整備部でございます。木製ガードレールの目標の考え方、7,000メートルというお話であったと思います。木製ガードレールにつきましては、設置の考え方といたしまして、国定公園、それから県立自然公園内の景勝地、道の駅や都市公園の周辺、あるいは四国八十八箇所の遍路道の周辺など、特に景観に配慮すべき箇所への設置を行うということで考えております。

そういった場所が何メートルあるのかというところをポイントにするべきではないかということもありましたけれども、目標値の設定の考え方につきましては、実は平成23年度から10年間で1万メートルという目標を別に持っておりまして、これは、木製ガードレールというのは普通のガードレールに比べて、かなり高価であるということがございまして、毎年500メートルくらいずつしか設置が難しいということもございまして、こういったことを配慮して毎年500メートル伸ばし、26年度までの整備に当たりましては、自然環境に調和した良好な景観が形成されるような場所を選定しながら設置していきたいと考えております。

それから、先程渋滞のお話もいただきました、これはどうやって評価するのかというC委員からもお話がありましたけれども、一方で空いたら一方で混むという、いたちごっこのようなところもございまして。今回、評価の中では渋滞の著しい交差点の緩和・解消に努めるということで、これで完全に渋滞が解消できるかというとなかなか難しいところではございますけれども、交通関係者で設置いたしました協議会で、渋滞長の著しい交差点など、そういった指標を設けて、渋滞交差点というものを決めておりまして、その渋滞がとれるかどうかというところで評価をいただいているところでございます。

(会長)

最後に私の評価私案をどうするかというところで皆さんに考えていただくということによろしいでしょうか。

他に御意見、御質問、何かございませんでしょうか。はい、D委員お願いします。

(D委員)

会長の評価は、結構メリハリが効いていて厳しい評価もあり、基本的には私のイメージと合っている評価になっていると思います。やはり、この「にぎわい」で観光というのは非常に重要です。そういう観点で40番の年間延べ宿泊者数は実績値が141万人ですか、23年度が、それで目標を上回ったのでCからBに上げるということでしたので、この数字から見ると確かに目標よりは増えているのでBに上げて良いかなとは思いますが、この延べ宿泊者数の統計というのは基本的に宿泊の目的を大きく、業務目的と観光目的と二つに分けていまして、徳島県は非常に観光目的の宿泊者数が少ない県なのです。三割もいっていない時があります。

ですから、この業務目的を含めた、延べ宿泊者数の数字というのは経済環境にもよりますし、県内の特にグローバルにやっている企業などの利用状況により、すぐにも影響してきますので、必ずしも、観光が効果を上げて、増えたかどうかというのは、もう少しこの統計を分析してみないとよくわからないのではないかという感じがします。これから目標を立てられる時には、この全体の延べ宿泊者数という数字がいいのかどうかということも含めて、もう一回検討した方がいいのではないかという感じがします。

いずれにしても、その観光で宿泊していただく方を徳島県内にもっと増やさないといけないと思います。ここからはちょっと評価の話とは違って感想なのですが、今、県内でも祖谷地区や、それから県南の方は官民が連携して観光でかなり効果を上げていていると思うのです。ところが、やはり一番、特にそのホテルや旅館が最もある徳島市ですよね、中心とする徳島県の東部地域、そののところにもっと観光客が来て滞在をしてもらわないと、なかなか徳島県全体の宿泊者数を観光目的で上げるとするのは相当難しいのではないかと感じておまして、そのための施策というのを、具体的な課題を今後どんどん出していく必要があると思っています。

それから、西部や南部ですと、地域の範囲も狭いので、官民が一体化して観光に向かって連携していくという動きが読みやすいのですが、徳島市ですと観光関連業者の数も多いですし、なかなか民間の中からそういうのを束ねて民間から観光で徳島市に人を呼ぼうというような動きがなかなか出てきにくいので、そののところはもっと行政が踏み込んで、そういう動きを民間と一緒に盛上げていくような仕組みをつくる必要があると思います。そのために徳島県と徳島市、観光のいろんな素材の多い鳴門市、その辺のところがもっと連携をして、いかにこの東部地域に観光客を滞在させるかという、この連携をもっとしていく仕組みをぜひつくる必要があるのではないかなというのが1点と、それから観光というのはやはり情報発信をさらに越えて、実際に客を呼んでくるためには、かなりエキスパートの能力が必要だと思うのですが、そういう意味で、例えば高知県では、高知県の観光コンベンション協会の中に例えば事務長さんなどはJTB出身者、その下に近畿日本ツーリストや日本旅行出身者の人がいます。

それから、高知の地域観光プロデューサーはリクルート出身の方など、そういう民間のノウハウを持った方が観光業種界に入っていて、それでいろんな具体的な施策を打っているという工夫があります。こういう方向に向かっての案件は、なかなか県庁の中からは出にくいかもしれませんが、やはり本当に徳島の観光を活性化して客を呼んでこようと思えば、やはり民間の活力をもっと使うというようなことを今後の課題として考えていく必要があるのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。いくつか御要望、アドバイスをいただいたのですけれど

ども、お返事をいただく前にもう一方くらい。はい、E委員お願いします。

(E委員)

今、D委員さんとのお話の関連で感じたことを言わせていただきたいと思います。特に38番、39番、従来阿波踊りの時には、本当に徳島にこんなにたくさん人がいるのだろうかというように、高円寺から来た人もびっくりするくらい、町中がまさに燃えているわけですが、それ以外の時に、いかに県外の人を定期的に呼べるかというのでは、やはり今ここに出ているこの「マチ☆アソビ」と「とくしまマラソン」ですね。これはもう既に、ある程度、基盤ができつつあると思うのです。

特に「マチ☆アソビ」の方は、今まであまり考えたことがなかったアニメの世界で、御承知のようにアニメのタレントさんの人気というのがあって彼らのキャラクターによるところが非常に大きいのですが、今まであまり考えなかったような若い人達がリピーターとして来ています。しかも、これには徳島新聞も絡んでいて、県はもう少し、利用できるのではないのかという感じがします。

それから、「とくしまマラソン」、これはもう完全に県が主導権を握ってやっている。今年、あの台風の悪条件の中で、あれだけの成果が出せたというのはすごいと思います。あれ以上、悪条件はないですからね。まさに台風ですから、あれは。台風の中であれだけの人が走って、しかもそれをサポートする、いろんなところで、出店みたいな形など、いろんな形が出て、これは本当に財産だと思うのです。

だから、数字的には確かに人口一人当たりの宿泊者数というような形でしか計れないかもしれませんが、これもやっぱり情報発信力ですよ。ね。「徳島へ行って良かった」、ただ単に観光しただけではなくて、自分が目的を持って行って、そこで自分が体を使って体験をして、またそれがこのリピーターになるという、その辺り非常に将来への展望があると思うので、もし何かその具体的なお願いや数字など、そういうのを担当課の方でお持ちであれば、教えていただければありがたいと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございました。もうお一方。はい、F委員。

(F委員)

2点ありまして、一つは18番の都市公園・緑地について、再検証し、関係市町と協働して見直しを推進、それで課題が実状を把握することと、先進地の事例の調査ということで、たぶんこのままでは、これは会長が評価していただいているCから永遠に上がらないのではないかと思います。実状の把握と先進地の事例は今、こ

の場を見たら、すぐある程度のものは書けていると思うのですよね。協議を行うことが進捗状況でしたら、会議の回数、それから緑地、状況が変わると緑地が減る、減らすということもありうる。でも見直していくことであれば、減らすという方向でいくなれば、もう少し具体的な何かが必要であるだろうし、徳島県の緑地が全国平均と比較して実際にどうなのかというようなことがあまりよくわからないですし、実際、町の中心部は県庁なのですが、意外と木陰がありません。暑い時に、日傘がないと、木の影もないところが多いなと感じております。この辺りがもう少し具体的な目標で努力の跡が見えるような形にしていきたいというのが一つと、同じことが48番、「おもてなしの国とくしま」、おもてなしのところを何で評価するのか、推進、推進、推進、これもたぶん3年経っても4年経っても、Cから変わらないと思います。今のような目標だけだと困難だろうし、具体的な成果や効果というのを何で評価するのかというところがわかりにくいです。課題が観光客に直接接することの多い観光事業者の接遇向上としたら、これに関しての研修を行うなど、具体的な目標が出てくれば、評価もCから上がるのではないかなと思います。少し抽象すぎると思いました。以上です。

(会長)

どうもありがとうございました。お三人の委員の方々から御意見、御要望、御提案、いろいろ頂戴いたしました。はい、お願いいたします。

(商工労働部)

商工労働部から、何点か御質問がありましたので御説明申し上げます。まず、D委員からの、観光の入り込み客数、宿泊者数の分析をもっと行うべきではないかと。徳島は御指摘のように、観光は三割程度ということで、今回入れておりますのはトータルでございますので、御指摘の点、数字のデータを分析しまして、そのような分け方が可能かどうか研究してみたいと思います。

参考までに、昨年度と比較したデータを見ますと、この秋、10、11、12と前年比からすると全国平均よりも大きく伸びていると、これは先程、E委員に御指摘、御賛同いただきました「マチ☆アソビ」、「とくしまマラソン」さらには「とくしま祭り」というイベントをもっておりますので、こういった効果が効いているのではないかなとも思っております。

それから、祖谷、あるいは県南地域の観光は、民間の方と地元の方が一体となって、非常に効果的に進んでいると、私もそのように感じているところでございます。このような取組が徳島でもできるべきではないかということで、その点について、もっと行政が積極的に乗り出すべきだと。御指摘のように先程申しました「マチ☆アソビ」、「とくしまマラソン」あるいは、この10月から毎年、観光計画で策定しまして、22年度からスタートしております「とくしま祭り」を定着させる

ようにPRをしっかりといたしまして、さらには非常に好調であります「とくしまマルシェ」もぜひ徳島の観光のおもてなしの一画となってもきているというように思っておりますので、こういった形で様々なイベントを商品化しまして、県内外問わず、国外、インバウンドにも使えるようなものにしていけたらなと思っております。そのためにも徳島県のみならず、徳島市、あるいは観光協会、さらには鳴門市方面の行政機関等を含めまして、そういった形で検討する場を設けたいとも考えております。そういった仕組みづくりをしまして、委員御指摘の取組をさらに加速していきたいというようにも思っております。

それから、情報発信のエキスパートということで、お隣の高知県におきましてはコンベンションで民間企業の方が入っておられるという点についてでございますけれども、この点につきましては、徳島観光協会というところには御存知のように、理事長はJRの御出身の方でいらっしゃるしまして、観光には非常に強い、プロの方でもございます。私共と車の両輪ということで一生懸命やっておりますので、そういった御指導をいただきながらも、さらにそういった取組ができるのかどうか、これにつきましては、御存知のように「四国ツーリズム創造機構」というところも一緒になって4県一体となって連携しておりますので、そこに航空会社やJTBさんもお入っておりますので、そういった方のお知恵を拝借しながらさらに情報発信ができるように連携してやっていきたいと思っております。

それから、最後に、マナーの向上の点については、評価がわかりにくいということでございます。御指摘のようにマナーの向上については最近の新聞紙上でも見ましたし、とりわけタクシードライバーの方へのマナー向上ということで、今年度はタクシーのマナー向上のために、タクシー従事者の研修会を行いたいと思っております。さらには、観光ボランティアの団体に対する研修も行ったりして、マナーの向上を図るようお願いするなど、あるいは観光事業功労者、あるいは観光施設優良従業員の表彰という形で従業員の良い影響が出るような表彰制度ももっているところでございます。御指摘のように、それをどのような形で評価するのかという点につきましては、非常に苦慮するところでございます。今後、これにつきましては幅広く御意見、委員の方に御指摘の点もいただきましたところを充分、我々、考えていきたいというように思っておりますので、今後とも御指導よろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。お三人の委員の方、よろしいでしょうか。はい、願ひします。

(県土整備部)

都市公園のことについての御質問の答えでございます。まず、徳島県内の都市公

園の見直し状況ということでございますが、都市公園の人口一人当たりの面積で言いますと、全国で徳島県は41位ということで、少し下の方におるという状況でございます。これから整備を進めていかななくてはということで、現在、都市計画決定されております公園のうち、既に供用済みが約半分くらいということで、まだ半分くらいがきちんとできていないという状況でございます。

都市公園には、いろいろな役割があるわけなのですけれども、特に先の東日本大震災の時にも、一時避難場所であったり、それから延焼を防ぐような、都市防災面での機能というようなことから現在見直しが必要であると言われております。そういった社会情勢の変化にも対応したような形で、これから整備する都市公園の見直しをどのような形で今後進めていったらいいのかということ由市町村と一緒に考えながら、県民が安全で快適に暮らせるようなまちづくり、都市づくりということで現在協議を進めておるところでございます。

それから、課題の把握の仕方、冒頭、会長からの今後の取組方針などを見据えて、もう少し考えていく必要があるのではないかと御指摘もいただいておりますが、県だけで数値的な目標設定はなかなか難しいところもありますので、今求められる都市公園の在り方などについて改めて関係市町村と一緒に協力を進めてできるだけ整備率を上げていきたいと考えております。以上でございます。

(会長)

どうもありがとうございました。そろそろ時間がまいりました、まだ御意見を伺っていない委員さんもいらっしゃるのですけれども、この辺りで採決を図りたいと思います。御意見いただきましたけれども、この評価案でよろしいでしょうか。

その前に7ページの26です。渋滞の緩和、これをどう解釈するのかということで、検討しているのですけれども、この26と、11ページのD委員から御指摘がありました40番です。これを数値目標が達成しているということで、私が本日CをBに変えたのですけれども、この2点について私の評価案ではなくてという御意見があれば、今、7ページの26番をAではなくてBですね、11ページの方はBではなくてやっぱりCだろうという。

(D委員)

これはBでいいと思います。ただ、全般に企画構想なのです、このところの課題がかなり抽象的ですよね。ですから全般にわたって課題のところはなるべく具体的にやったらいいのではないかと思います。Cだという感じはしますが、でもここは一応それを、延べ宿泊者数を目標値にしてきた以上、Bでいいと思います。

(会長)

他の委員の皆さん、11ページのCをBにということでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(会長)

はい、それから7ページの26の渋滞についてです。渋滞緩和しているのですけれども、一方で渋滞しているというこの評価はAでいいのだろうかという御意見なのですけれども、どうでしょうか。AかBか。Aでよろしいでしょうか。

(A委員)

こういう問題というのは、一部で良くなれば一部のところで渋滞ができあがる、システムができあがるので、こういう問題は常に起こってくる問題です。一部のところで私もいろいろ恩恵を受けているのですけれども、津田へ走るのに60分はかかっていたところを15分か20分で行けるようになったという、そういう代わりの策定というのはあると思います。それは徐々に進んでいくことでないかと思しますので、それをいちいち評価をBやCというのはあまり良くない気がします。

(会長)

では全体を通して、この私の評価案でいかがでしょうか。異論ございませんでしょうか。

《異議なし》

(会長)

それではこれで終わることにいたします。

続いては、知事室の目安箱やわくわくトークなどに寄せられた御意見・御提言のうちで、本日のテーマ「にぎわい・感動とくしま」に関連した御提言を事務局より御説明願いたいと思います。よろしくお願ひします。

～【事務局より説明】～

(会長)

はい、どうもありがとうございました。今、事務局から紹介がありました目安箱等に寄せられた意見・提言のうちで、優れた意見・提言を1、2件採択していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。1から6までどなたか。はい、G委員お願ひします。

(G委員)

1番の「倉庫群の活用について」というのをぜひ進めていただいて、やはり港や港湾周辺が元気になるようにしていただけたらと思います。特に若い方が楽しんで来られるような方向にいただけたら、いろんな他のことにも繋がって元気になりますし、いろんな他のものと連携していったらいいのではないかなと思います。

(会長)

ありがとうございました。今、G委員から番号1の「倉庫群の活用について」はどうだろうかということでした。他に御意見ございませんでしょうか。はい、D委員。

(D委員)

今の1番の万代埠頭の倉庫群の活用ですが、万代埠頭を活性化するというのは、もう既にやっておられるのではないのですか。その点で、今までやっていたこととの関係はどうなのかという点がこれに関してはあると思います。

(会長)

D委員、これに対しての今、御意見で、番号はどれがいいなどありますか。

(D委員)

他は抽象的な御意見ばかりが多いので、推薦したいなというのは、私自身は見当たりません。

(会長)

わかりました。ではまず、説明していただきましょうか。万代埠頭の件。

(県土整備部)

県土整備部でございます。今、D委員から御指摘がございましたように、このシートの中でいいますと、21番のところ、徳島小松島港万代中央地区において、既存倉庫群を活用した「憩いの場」や「にぎわい空間」の創出をするということで、これは行動計画に既に入れているということでございます。状況としましては、昨年度、倉庫以外の利用においても何か使っていこうということで実験を始めたところでございます。今後、この状況を見ながら、万代地区既存倉庫を倉庫だけでなく、いろんなにぎわいができるような用途にも規制を緩和していこうというような取組でございます。

(会長)

ありがとうございました。今、既に取り組んでらっしゃることにプラスしてというような意味があれば2番でいいのかなという気もいたします。どなたか、これはという御意見ございませんでしょうか。これがいいのではないかという、御発言いただいてない方、どなたか。H委員、お願いします。

(H委員)

先程ありましたように、私も今回、特に推薦したいなと思うものはありません。こういう意見です。

(会長)

はい、ありがとうございました。では、御発言いただいてない方、I委員、どうですか。

(I委員)

私も、うーんというところなのですけれども、目安箱の「花の観光県」というところがあるのですけれども、徳島県は林業が盛んですのでいかがかなというところで、保留ということです。

(会長)

ありがとうございました。では、J委員、御発言いただいてないので。

(J委員)

絶対言おうと思っていたことがあって、高校野球が好きなのです。それで、この前の徳島県の県予選を見に行っただけなんですけれども、ファールボールがすぐ球場の外へ出て行くのです。あれ、たぶんそのうちけが人が出ると思うのです。何かネットをして覆うようなことをしないと子供に当たったりしたら大変だと思うのですが、それは置いておいて。

目安箱の件に関しましては、今の職場に関係ある6番の県南のジオパーク、これもジオパークに認定された時に、問い合わせが多いなと思ったのです。それで地図を今、阿南と室戸と安芸の他の事業があって、こういう地図を掲示しようかと思って進めていっていたのですが、あまり問い合わせがありません。「室戸にこんなものがあるから、どうやって行ったらいいのかなあ」という問い合わせがないので、今後これをもうちょっとアピールしていかないといけないのかなと思っております。今の時点では問い合わせはほとんどありません。これは個人的な問題で一番取り組んでいただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。ボールが飛んできて、けがをするというのは考えていただくということで、今、目安箱の採択、1番、6番ということだと思います。

1番については今、実際に既に組み込んでらっしゃる事業の何かがあるとすれば、これでいいのかなというようには思いますし、今やっているからもういいのではないかという御意見もあって、いや今回はないのではないかという御意見もあって、ちょっと私もどうしようかなと思っているところなのですけれども。

(D委員)

3番などは、このテーマはいいなと思いますが、やるとなると予算付けるなど、具体的にどうやってやるかというのがないまま、夢みたいな構想というのも少し具体性に乏しい感じがしました。

大阪のように企業や個人からを含めて、お金を寄付してもらって桜並木をどんどんつくるなど、具体的にこういうようにやって徳島県を観光県にという、その具体論があればいいと思うのですが、これだけだと少し抽象的な感じがしました。

(会長)

どのようにしましょう。決を採るというのも、どういたしましょう、今回は見送りという御意見、それから6番という御意見、3番もいいけど抽象的である、1番はいいけれども既にやっているではないかと、こうなるとどういたしましょう。どなたか、いいなという案を。はい、F委員。

(F委員)

一番具体的な4番はどうかなと。すぐできそうな気がしますし、すだちくんのぬいぐるみを着てすだちを配るくらいのことは県庁の職員でもできるのではないかと思いますので、4番はどうかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。先程偉そうに着地点を見据えてなどと言いましたけど、今、困っております。こうなりましたら、多数決でいきますか。どうでしょうか。

(教育委員会)

少しよろしいですか、教育委員会です。

今、徳島のミュージアムがおもしろくなってきた、このポスターのところで御意見が出たわけでございますけれども、この目安箱についてはミュージアムのパン

フレットあるいはポスター等を県外でも置いて、もっとPRしたらどうかという御提言だと思います。今は県立博物館、美術館の企画展に関する県外での広報につきましても、以前より近隣県の学校、教育機関をはじめといたしまして、全国の社会教育文化施設、それから観光施設と幅広くポスター、チラシの設置を既にお願いをしておるところでございます。

さらに今年度から文化の森企画広報室を新設いたしまして、これまでも増して、県民目線のより良い企画やサービスの提供に努めると共に、文化の森6館の効率的な広報を担当しておるところでございます。従いまして、県外の広報というものも充分やっておると考えておりますので、よろしく申し上げます。

(会長)

ますます混乱をしてまいりました。はい、A委員。

(A委員)

この提言をすれば、ここで決めれば県の方で検討するということなのですか。

(会長)

そのように認識しておりますが。

(A委員)

ここで上がってくるのであれば検討していただいて、だめですと言うのはいけないのですか。

(会長)

もう全部いこうじゃないかということですか。

(A委員)

いえ、全部は。

(会長)

一つ、二つと申しあげましたけれども、それが三つになったらということではないと私は思っております。

(A委員)

いえ、今、F委員からあったようにこれだけ見て、具体的にどのように進めて、推薦したらいいのかというのが非常にわかりにくい状況にあるのではないかと思います。

(会長)

これを提言することで、県としては考えていただくということですが、確かに。

(A委員)

こんな言い方は失礼かもしれませんが、これを言った時におもしろい提案ではないと、それを県としても検討してくれますかというのは、委員会としては失礼だと思いますけれども、今、上げられるのであればその程度しかないということ、できないのではないかなど。これ以上知りたいのであれば、もう少し詳しいことがわからないと推薦するというのは難しいのではないかと思います。

(会長)

困りました。これだけではわかりにくいし、今回、採択するにはちょっといかななものかと、全てそういうことであれば、それも一つの方法だとは思っております。でもこの文章だけからでも採択してほしいというお考えでいらっしゃるようですので、どうでしょうか。

確かにミュージアム、徳島のすだち配りのような具体的な話から、5番目のスポーツ選手のレベルアップを図ってほしいというような、もっと抽象的な花の観光県にしてほしいというようなものまでありますので、我々委員として、これを縁に、こういうところは必要に推し進めてくれていったらいいだろうというようなところを採択したいと考えているわけです。なので、申し訳ないのですが、多数決ということをお願いしたいと思います。

1番から6番までありますので、1番を採択したい方、2番、3番、4番、5番と申し上げますので、挙手をお願いいたします。

1番、倉庫群の活用。新幹線、2番目の。花の観光県、3番。ミュージアム。スポーツ選手。県南の観光政策。はい、ありがとうございました。

あまり今回は、ということになってしまいましたが、お一人でもいらっしゃるものは上げるということで、どうでしょうか。県側からその結果のお返事はまとめていただくということにして、それでこうこうこうでこうだからこんな状況だというようなことをお返しいただくということで、1番と6番を採択するというので、これに対して賛成か反対かの挙手をお願いしたいと思います。お一人でもいるので1番と6番ということで、ご了承いただける方は挙手をお願いいたします。

《挙手賛同》

(会長)

ということで、1番の倉庫群の活用、6番の県南の観光政策の充実ということを選択とさせていただきます。

(南部総合県民局)

すみません、少しいいですか。南部総合県民局です。このような形で推薦していただいてありがたいのですが、実際に我々がやるべきこと、こういうことをやろうという部分もあるのですが、それに対して具体的に予算などをどうこうするという話になるのでしょうか。今後の課題ということでもよろしいですか。

(会長)

はい、だから県南の観光政策の充実を図ってほしいということですから、この文章を読んでいただいて、予算の問題があるからここまでというような形でいたしかたがない部分はあるのかなという気もいたしますが。そのように私がお答えしているのかどうかわからないのですけれども。

(監察統括監)

優れた意見を取り上げたということです。

(会長)

ということで、1番と6番を優れた意見・提言として採択したいと思います。いろいろ不手際申し訳ございませんでした。御意見、まだまだいろいろおありだと思いますけれども、時間の都合もございませぬ、この辺りで意見交換終了したいと存じます。

本日、委員の皆様からいただいた貴重な御意見につきましては、総合計画審議会や他の評価機関といった第三者機関に対して提言するという仕組みとなっております。

提言を受けて、関係する第三者機関における御提言等に活かしていただきながら、今後の計画の推進や事業の見直し、具体的に重ねて取り組んでいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

続いて、議事の(2)です、評価期間の運営評価についてです。事務局から説明をお願いいたします。

～【事務局より説明】～

(会長)

はい、それではただいま事務局から説明がありましたように評価機関の運営評価を行うということで、具体的な評価機関を決めなければなりません。いかがいたし

ましょう。

8つの機関を説明していただきましたけれども、どなたかこれはという御意見はございませんでしょうか。1番、2番は昨年実施したということで3番から8番までで御意見ございませんでしょうか。

(E委員)

会長に一任したいと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。今、E委員から、会長に一任という御発言をいただきましたけれども、それでよろしいでしょうか。では、私としましては昨年、1番2番の南部、西部の計画推進評価部会の評価という対象にいたしましたので、本年度は試験研究機関はどうかということで、6番目になります徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会、試験研究普及指導活動教育研究業務ということで、この支援センター、非常に幅が広い活動をされております。この6番目を取り上げて運営評価を行いたいと考えておりますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

《異議なし》

(会長)

ありがとうございます。日程については事務局と相談の上、秋以降くらいと考えております。相談の上、決定したいと考えております。

それで、運営評価の進め方なのですが、資料5の2枚目に運営評価機関の評価の進め方について、(案)というものがお手元にあると思います。昨年は内容をABCで評価をしたのですが、今年度、これはあくまで(案)なのですが、今年であればこの徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会の委員の皆さんの御意見を聞きながら、その評価機関をいい方向に進めていただいたらということで考えております。ご覧いただきまして、これについては、時間の関係もありますので、この資料をご覧いただき事務局へ御意見「このようにしたらいいのではないか」「いや、どうだ」というような話しをしていただけたらと思っております。よろしく願いをいたします。以上です。

それから、本日の会議の内容全てですけれども、まだ何か御意見、御質問等ございましたら、後日でも構いませんので事務局の監察局までご連絡いただけたらと思っております。時間も来てしまいました。本日は委員の皆様方には身に余るような御意見、御提言、ありがとうございます。最後に戦略会議の運営に関しましてお諮りしたいことがございますので、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

本日、御論議いただきました評価結果につきましては、事務局で整理いたしまして、会長に御確認をいただいた上で、総合計画審議会の方に提出させていただきたいと思っております。

また、本日の会議録につきましては、事務局でとりまとめ、これにつきましても会長に確認いただいた上で、HPなどに公表したいと考えております。

なお、2回目以降についても同様に、各班長、それから会長に確認いただいた上で公表したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたしたいと思っております。

(会長)

以上、事務局から説明がありましたが、会議ごとの評価結果、審議会への提言及び会議録の公表につきましては、班別会議は各班長さんに御確認いただいた上で、最終的には会長である私の判断により行うということで、よろしゅうございますでしょうか。

はい、それでは、異議もないようですので、そのように扱わせていただきたいと思います。

以上をもちまして本日の議事、全て終わらせていただきます。不行き届きばかりで、毎度のことですけれども、申し訳ございません。議事の進行にご協力いただきありがとうございました。では、マイクを事務局にお返しいたします。

■ 監察統括監挨拶

(事務局)

どうもありがとうございました。それでは閉会に当たりまして、監察統括監から最後に一言、ご挨拶させていただきます。

(監察統括監)

監察統括監でございます。今日は会長さんをはじめ、委員の先生方には長時間にわたる審議、誠に御苦勞様でございました。これまでいただきました熱心かつ有意義な御義論につきましては、その討議結果を各部局に持ち帰りまして、事業の今後の見直し、ひいては予算の編成等に有効に活用させていただきたいと考えています。本日はどうもありがとうございました。

(事務局)

それでは、以上で全ての会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。